

Windows Server 2008 R2 および Windows 7 Service Pack 1 のテスト フォーカス ガイド

Microsoft Corporation

公開日: 2010 年 6 月

バージョン: 1.3

要約

このドキュメントは、Windows Server 2008 R2 (”サーバー”)とWindows 7 (”クライアント”) の Service Pack 1 (SP1) で導入された重要な変更にフォーカスしています。これらの変更はいくつかの重要なエリアにおよびますが、最終的には 3 つのカテゴリーに分類されます。

* 管理タスクを簡略化する変更
* 全体的な品質（セキュリティ、安定性、パフォーマンス）の継続的な改善
* 新しい技術や標準のサポート

それぞれの変更と関連するテストシナリオが、既知の問題や KB の記事と一緒に提供されています。このドキュメントはそのような変更といくつかの共通で興味深いシナリオにハイライトを当てています。いくつかのシナリオには特別なハードウェアが必要かもしれません。そのような必要な要件もそれぞれのシナリオで触れました。

このドキュメントには英語ドキュメント Windows\_7\_and\_Windows\_Server\_2008\_R2\_SP1\_Beta\_Test\_Guidance.doc の日本語参考訳（一部）に加え、日本語特有の機能のテストをするためのシナリオが追加されています。併せてご参照のうえ、御社でのご評価にお役立てください。

著作権情報

このドキュメントは、“現状のまま” 提供されます。このドキュメントに記載されている情報および見解 (URL およびその他のインターネット Web サイトの参照先) は予告なく変更されることがあります。お客様ご自身の責任において使用してください。

このドキュメントは、マイクロソフト製品の知的財産に関する法的権利をお客様に許諾するものではありません。このドキュメントは、社内での参照目的でコピーおよび使用できます。

© 2010 Microsoft. All rights reserved.

Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation およびその関連会社の商標です。このドキュメントに記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

目次

[Windows 7 SP1 および Windows Server 2008 R2 SP1 のテスト フォーカス ガイド 1](#_Toc268873797)

[このドキュメントで扱う範囲 1](#_Toc268873798)

[フィードバックの送信 1](#_Toc268873799)

[変更された主要な区分 2](#_Toc268873800)

[ハードウェアおよびドライバー開発者向け SP1 ベータ テスト ガイダンス 3](#_Toc268873801)

[テスト環境とセットアップ 4](#_Toc268873802)

[テスト シナリオ 4](#_Toc268873803)

[テスト結果のレポートのテンプレート 8](#_Toc268873804)

[サーバーの役割と優先度 9](#_Toc268873805)

[ネットワーク 9](#_Toc268873806)

[DHCP 9](#_Toc268873807)

[DHCP における品質向上 9](#_Toc268873808)

[重要なシナリオ 10](#_Toc268873809)

[ネットワーク負荷分散 13](#_Toc268873810)

[NLB における品質向上 13](#_Toc268873811)

[重要なシナリオ 13](#_Toc268873812)

[BranchCache 15](#_Toc268873813)

[BranchCacheとは 15](#_Toc268873814)

[重要なシナリオ 15](#_Toc268873815)

[ストレージ 17](#_Toc268873816)

[ファイル サーバー リソース管理 17](#_Toc268873817)

[ファイル サービスにおける品質向上 17](#_Toc268873818)

[重要なシナリオ 17](#_Toc268873819)

[サーバー テクノロジ 20](#_Toc268873820)

[DNS 20](#_Toc268873821)

[DNS サーバーにおける品質向上 20](#_Toc268873822)

[重要なシナリオ 20](#_Toc268873823)

[リモート デスクトップ サービス (ターミナル サービス) 22](#_Toc268873824)

[リモート デスクトップ サービスにおける品質向上 22](#_Toc268873825)

[重要なシナリオ 22](#_Toc268873826)

[ディレクトリ サービス 25](#_Toc268873827)

[ディレクトリ サービスにおける品質向上 25](#_Toc268873828)

[重要なシナリオ 25](#_Toc268873829)

[インターネット インフォメーション サービス (IIS) 30](#_Toc268873830)

[IIS における品質向上 30](#_Toc268873831)

[重要なシナリオ 30](#_Toc268873832)

[クラスタリングと高可用性 31](#_Toc268873833)

[クラスタリングと高可用性における品質向上 31](#_Toc268873834)

[重要なシナリオ 32](#_Toc268873835)

[ADFS 33](#_Toc268873836)

[ADFS とは 33](#_Toc268873837)

[重要なシナリオ 33](#_Toc268873838)

[Rights Management Services サーバー 36](#_Toc268873839)

[RMS における品質向上 36](#_Toc268873840)

[重要なシナリオ 36](#_Toc268873841)

[ネットワーク アクセス保護 40](#_Toc268873842)

[ネットワーク アクセス保護とは 40](#_Toc268873843)

[重要なシナリオ 40](#_Toc268873844)

[分散ファイル システム/レプリケーション 43](#_Toc268873845)

[分散ファイル システム/レプリケーション 43](#_Toc268873846)

[重要なシナリオ 43](#_Toc268873847)

[Windows Data Access Components (Windows DAC) 44](#_Toc268873848)

[Windows DAC における品質向上 44](#_Toc268873849)

[重要なシナリオ 44](#_Toc268873850)

[クライアント テクノロジ (サーバーとクライアントの両方に該当) 48](#_Toc268873851)

[印刷 48](#_Toc268873852)

[印刷における品質向上 48](#_Toc268873853)

[重要なシナリオ 48](#_Toc268873854)

[ベータ版のRemoteFX のテスト 50](#_Toc268873855)

[RemoteFX の手順ガイドと展開ドキュメント 51](#_Toc268873856)

[その他 54](#_Toc268873857)

[Dynamic Memory 54](#_Toc268873858)

[Dynamic Memory とは 54](#_Toc268873859)

[重要なシナリオ 57](#_Toc268873860)

[SQL Server 58](#_Toc268873861)

[SQL Server における品質向上 58](#_Toc268873862)

[重要なシナリオ 58](#_Toc268873863)

[日本語特有の機能 62](#_Toc268873864)

[日本語入力 62](#_Toc268873865)

[重要なシナリオ 62](#_Toc268873866)

[日本語での検索 64](#_Toc268873867)

[重要なシナリオ 64](#_Toc268873868)

[日本語文字の表示 65](#_Toc268873869)

[重要なシナリオ 65](#_Toc268873870)

# Windows 7 SP1 および Windows Server 2008 R2 SP1 のテスト フォーカス ガイド

マイクロソフトは、Windows 7® および Windows Server® 2008 R2 をよりよい製品にするために、絶えずソフトウェア ベンダーやハードウェア ベンダーと連携し、更新プログラムの提供を通じて、アプリケーションおよびハードウェアの互換性向上に努めています。Service Pack 1 (SP1) も、こうした取り組みの一環として、改良したオペレーティング システムをユーザーに提供するための手段の 1 つです。

SP1 は、Windows 7 と Windows Server 2008 R2 のそれぞれに対する更新プログラムです。各種のチャネルを通じてユーザーに提供してきた更新プログラムを収録しているだけでなく、ユーザーからのフィードバックが反映されています。これまでリリースされた更新プログラムと同様、SP1 には、最新のハードウェアをサポートし、新たに策定された標準に対応すると共に、信頼性、パフォーマンス、および互換性に関する具体的な問題に対処するための変更が盛り込まれています。IT の管理性を向上する取り組みは、SP1 でも変わりません。SP1 は、新機能をリリースするためのものではありませんが、いくつかの既存の機能は、SP1 で若干機能が強化されています。

## このドキュメントで扱う範囲

このドキュメントは、Windows Server 2008 R2 (”サーバー”) と Windows 7 (”クライアント”) の SP1 で導入された、重要な変更にフォーカスしています。これらの変更はいくつかの重要なエリアにおよびますが、最終的には 3 つのカテゴリーに分類されます。

* 管理タスクを簡略化する変更
* 全体的な品質 (セキュリティ、安定性、およびパフォーマンス) の継続的な改善
* 新しい技術や標準のサポート

それぞれの変更と関連するテスト シナリオが、既知の問題や KB の記事と一緒に提供されています。このドキュメントはそのような変更といくつかの共通で興味深いシナリオにハイライトを当てています。いくつかのシナリオのいくつかには特別なハードウェアが必要かもしれません。そのような要件も各シナリオで触れられています。

## フィードバックの送信

このドキュメントの内容に関するご意見やご指摘については、Connect アカウントを使用してお寄せください。

**重要**

この内容に関するご意見やご指摘については、Connect アカウントを使用してお寄せください。

フィードバックを送信するには

1. Connect アカウントにログオンします。
2. バグ送信フォームを開いて内容を入力します。
3. データ グラバー ツールを実行します。
4. データ グラバー ツールで生成された CAB ファイルをバグに添付します。
5. バグを送信します。

## 変更された主要な区分

このセクションでは、オペレーティング システムの品質向上のために行われた各種変更の主な区分と下位区分について説明します。

| **区分** | **変更された主要な下位区分** |
| --- | --- |
| ベース テクノロジ | .NET Framework  エミュレーション層  ファイル システム (ローカル)  HAL  カーネル  プラグ アンド プレイ  電源管理 |
| クライアント テクノロジ | クライアント プラットフォーム  日付と時刻  デスクトップ シェル  グラフィックス インフラストラクチャ  Internet Explorer  ログオン |
| コンピューターの管理 | 自動化されたタスク |
| コア仮想化 | ハイパーバイザー (HV)  仮想デバイス |
| データ サービス | データ アクセス コンポーネント |
| ドライバー | 1394  PCI  プリンター  セキュア デジタル (SD)  USB コア |
| マルチメディア | オーディオ/ビデオ コア  コーデックと DSP  メディア センター  Media Center Extender  メディア ファンデーション |
| ネットワーク | DHCP  IPsec  Network Driver Interface Specification (NDIS)  RRAS  TCP/IP  Windows フィルターリング プラットフォーム (WFP)  ワイヤレス サービス |
| セキュリティ | 認証  暗号化  PKI |
| サーバー テクノロジ | ADFS  クラスタリングと高可用性  ディレクトリ サービス  DNS サーバー  ファイル システム (リモート)  インターネット インフォメーション  サービス (IIS)  権限管理サーバー  リモート デスクトップ サービス  Windows Data Access Component |
| ストレージ | コア ストレージ  パーソナル ストレージ |

## ハードウェアおよびドライバー開発者向け SP1 ベータ テスト ガイダンス

このセクションでは、サード パーティのドライバーまたはデバイスに対するテストのシナリオについて説明します。このテストの目的は、サード パーティ製のデバイス ドライバーに悪影響 (Windows 7 製品版と比べて機能が低下するなど) が生じないかどうか、また、サード パーティ製のデバイスやドライバーに、適用性や販売機会について大きな影響を及ぼす問題がないかどうかを、出荷サイクルの比較的早い段階で見つけることです。

### テスト環境とセットアップ

1. x86 および x64 の両方のプラットフォーム (可能であれば IA64 環境も準備)
2. Windows 7 とWindows Server 2008 R2 の両方のオペレーティング システム (適宜)
3. 最新のWindows Logo 取得済みのドライバー
4. Home、Ultimate、Professional、および Server の各 エディション

### テスト シナリオ

次の表の中で、"デバイス" は、使用するドライバーによって制御されるデバイスを指します (オーディオ、ビテオ、印刷、ネットワーク、USB、ストレージ、光学デバイスなど)。テスト対象となるドライバーは、通常、これらのテストを実施する前にインストールしておく必要があります。

| **区分** | **テスト ID** | **テスト バリエーション** |
| --- | --- | --- |
| SP Update | T1 | 1. SP Installation: Service Pack のインストール (例えば、Windows 7 に Windows 7 SP1 を、Windows Server 2008 R2 に Windows Server 2008 R2 SP1 をインストール) した後も、すべてのデバイスが正常に動作することを確認します。 2. SP Uninstallation: Service Pack のアンインストール (例えば、Windows 7 または Windows Server 2008 R2 からSP1 をアンインストールする) した後も、すべてのデバイスが正常に動作することを確認します。 3. SP1 のインストールもしくはアンインストール中に応答しない問題などの重要な問題が発生しないことを確認します。 4. Default Device Settings: SP のインストール後およびアンインストール後も、既定のデバイス設定が維持されることを確認します。 5. Non-Default Device Settings: 既定以外のデバイス設定がSP のインストール後およびアンインストール後で有効にならないことを確認します。 6. デバイスを制御および構成するアプリケーションのうち、Microsoft 製以外のアプリケーション (IHV によって開発されたアプリケーション) がサービスパック更新後も適切に機能することを確認します。 |
| Power Management | T2 | 1. S2、S3、S4、ハイブリッド スリープ (スタンバイ、休止状態): 低電力状態からの復帰後にデバイスが引き続き正常に動作することを確認します。 2. バッテリー駆動で電源プランを「省電力」にした状態でもT2、T3 およびT4 のテスト項目の一部を実施します。 |
| Plug and Play | T3 | 1. システムから取り外し、再接続した後にデバイスが引き続き正常に動作することを確認します。 2. Plug and Play と 電源管理の複合テスト: システムをスタンバイ状態にし、デバイスを取り外した後にスタンバイより復帰、デバイスを再接続し、デバイスが引き続き機能することを確認します。 3. Docking:ラップトップをドッキング ステーションと着脱し、デバイスが引き続き機能することを確認します。 4. Driver Installation:新しいバージョンのドライバーのインストール中とインストール後に、デバイスが機能することを確認します。 5. Driver Uninstallation:ドライバーをアンインストールし、以前のバージョンのドライバーに復元されることを確認します。 6. デバイス ドライバーの読み込み: デバイスがアクティブ化されるとデバイス ドライバーの読み込みが行われことを確認します。 |
| Scenario Based | T4  Video | 1. 周辺機器にビデオ画像や写真を記録し、ディスクに取り込み、保存したり、Web サイトにアップロードしたりします。 2. 2 台目、3台目の拡張ディスプレイまたは外部プロジェクターへ出力します。 3. ビデオ チャットIMやテキストIMを組み合わせて使用します。 |
|  | Networking | 1. 大きなファイルを有線/無線LAN 接続を経由してコピーします。 2. ネットワークからビデオをストリーミングします。 3. Web サイトからZune やiPodなどの周辺機器へ音楽を読み込みます。 |
|  | Audio | 1. インターネットよりオーディオファイルをストリーミング再生します。 2. オーディオファイルを再生します。 3. DVD を再生します。 |
|  | Print | 1. フォトギャラリーで画像を開き、印刷します。 2. Excel のスプレッドシートを開きテーブルにデータを入力し、印刷します。 3. 紙の書類をスキャンし、スキャンしたイメージをコンピューターで表示します。 4. PowerPoint から印刷を行います。 5. Adobe PDF ファイルを印刷します。 6. Word から印刷を行います。 |
| Basic optional features installation and uninstallation |  | 1. サービスパックをインストールする前に、全てのオプション 機能を有効にします。 2. 管理者として実行したコマンド プロンプトにて optionalfeatures.exe を実行し、ツリー内の全てのチェックボックスを選択します。 3. SP Installation: サービス パックが問題なくインストールできることを確認します。 4. 全てのオプション機能が問題ないことを確認します。 5. オプション機能をすべて無効にします。 6. すべてのオプション機能が正常に無効化されていることを確認します。 |
| Basic scenario for Dism.exe and Disk Cleanup Utility  **注**  SPScavenge 機能は SP1 で導入される機能なので、オフライン環境で SP1 バイナリが提供されていることを確認します。  DISM コマンドの実行後に SP1 をアンインストールすることはできません。 | S1 | 1. SP Installation: サービス パックが問題なくインストールできることを確認します(Windows 7 に Windows 7 SP1 を、Windows Server 2008 R2 に Windows Server 2008 R2 SP1 をインストールするなど)。 2. 以下のコマンドを実行してインストール済みの機能の状態をキャプチャします。 Run dir “%windir%\” /b/s/a:-d>files\_before.txt 3. 管理者特権で実行したコマンド プロンプトから、次のように Dism.exe を実行し、サービスパックのインストールにより置き換えられた機能を削除します。(管理者特権で実行しないと ERROR\_ELEVATION\_REQUIRED で失敗します。) %windir%\system32\dism.exe /Online /Cleanup-Image /spsuperseded 4. 次のコマンドでインストール済みの機能の状態を取得します。 Run dir “%windir%\” /b/s/a:-d>files\_after.txt 5. files\_before.txt および files\_after.txt の差分が Dism.exe により削除された項目の一覧になります。 6. 更新プログラムのアンインストールを使用してサービス パックがアンインストールできないことを確認します。 |
| S2 | 1. SP Installation: サービス パックが問題なくインストールできることを確認します。 2. 以下のコマンドを実行してインストール済みの機能の状態をキャプチャします。 dir “%windir%\” /b/s/a:-d>files\_before.txt 3. cleanmgr.exe を実行してディスク クリーンアップ アプリケーションにアクセスします。 4. 削除可能なシステム ファイル一覧を得るため “システム ファイルのクリーンアップ” ををクリックします。 5. Service Pack をアンインストールするのに必要なバックアップ ファイルの項目を選択し、他の項目は選択を解除します。 6. OK をクリックし操作状況を確認します。 7. 以下のコマンドを実行してインストール済みの機能の状態をキャプチャします。: Run dir “%windir%\” /b/s/a:-d>files\_after.txt 8. files\_before.txt および files\_after.txt の差分がCleanmgr.exe により削除された項目の一覧になります。 9. 更新プログラムのアンインストールを使用してサービス パックがアンインストールできないことを確認します。 |

##### **予期しない結果**

* バグチェック (ブルースクリーン)
* コンピューターが応答しない
* 機能が動作しない
* SP1 へアップデート後にシステムが使用できない

### テスト結果のレポートのテンプレート

ドライバー名とバージョン:

PNP ID:

オペレーティング システム/プラットフォーム:

| **テスト ID** | **結果** |
| --- | --- |
| T1 | 合格 |
| T2 | .. |
| .. | .. |

何か報告する問題がある場合は、次のログをキャプチャしてください。

* %WINDIR%\WindowsUpdate.log
* %WINDIR%\Inf\setupapi.dev.log
* %WINDIR%\Inf\setupapi.app.log
* %WINDIR%\Logs\CBS\CBS.log
* %WINDIR%\Logs\CBS\CBS.persist.log
* %WINDIR%\Panther\setupact.log
* %WINDIR%\Panther\setuperr.log
* %WINDIR%\MEMORY.DMP (存在する場合)
* %WINDIR%\Minidump\\*.dmp
* Dxdiag
* Msinfo32

## サーバーの役割と優先度

次の表は、役割の優先度の一覧です。優先度は、それぞれの役割に関連する各種機能の変更に基づいて決定されています。Windows Server 2008 R2 で実施する各種テストやシナリオの優先順位を決める際の参考にしてください。

| **サーバー番号** | **役割の優先度** | **サーバーの役割** |
| --- | --- | --- |
| 1 | P0 | Hyper-V |
| 2 | P0 | ターミナル サービス |
| 3 | P0 | Active Directory Rights Management サービス |
| 4 | P0 | 印刷サービス |
| 5 | P0 | クラスター |
| 6 | P0 | ファイル サービス |
| 7 | P0 | RRAS |
| 8 | P0 | Active Directory ドメイン サービス |
| 9 | P1 | DNS サーバー |
| 10 | P1 | Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス |
| 11 | P1 | Active Directory 証明書サービス |
| 12 | P1 | ネットワーク ポリシーとアクセス サービス (NAP) |

## ネットワーク

### DHCP

#### DHCP における品質向上

Windows Server 2008 R2 SP1 の DHCP では、IP リースと IP スコープの両方において機能と信頼性が向上しました。

#### 重要なシナリオ

シナリオ 1 - MAC ベースのフィルター処理

##### 目的:

クライアントが DHCP サーバーから適切にリースを取得できることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 に DHCP サーバーの役割をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. Windows Server 2008 R2 SP1 の DHCP サーバーを、各種 Windows オペレーティング システムを実行しているクライアントと接続します。
2. Netsh コマンドまたは UI を使用して、DHCP サーバーにフィルターを追加します。
3. 許可リストがある場合は、“許可” リストに含まれるクライアントのみ、リースを取得できるようにします。また、"拒否" リストに含まれるクライアントは、リースを取得できないようにします。
4. "許可" リストがない場合は、拒否リストに含まれるクライアントを除く、すべてのクライアントがリースを取得できるようにします。

このガイドラインの詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/ee405265%28WS.10%29.aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

"拒否" リストに含まれるクライアントはリースを取得できないが、その他のクライアントは、DHCP サーバーの構成に応じて、リースを取得できる。

##### 例外:

なし

シナリオ 2 - 分割スコープ

##### 目的:

DHCP のスコープを分割する機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 を実行しているサーバーを 1 台と、DHCP の役割をインストールしたサーバーを 2 台用意する。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. 同じネットワーク上に 2 台の DHCP サーバーをセットアップします。
2. 管理者は、一方の DHCP サーバー上に、適切なスコープを作成します (または、事前に構成したスコープを使用する場合もあります)。分割スコープ ウィザードを使用して、このスコープを、同じネットワーク上にある、もう一方の DHCP サーバーに拡張できます。
3. このガイドラインの詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/ee405264%28WS.10%29.aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

この DHCP の機能を利用すると、一方のサーバーでは、自動的にスコープが設定され、必要な除外処理が行われる。

##### 例外:

なし

シナリオ 3 - DHCID

##### 目的:

DHCP の DHCID 機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 に DHCP サーバーの役割をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. Windows Server 2008 R2 SP1 を実行している DHCP サーバーが、クライアントの代わりに DNS サーバーに A/AAAA を登録するようにして、DHCID の機能を構成します。
2. DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーに設定し、DHCP サーバー経由で DNS サーバーにアクセスできるようにします。DHCP サーバーからリースを取得する、Windows 以外のクライアント (Linux など) を数台用意します。
3. 同じ FQDN 名を持つクライアントが DNS サーバーに登録されていない場合に限り、DHCP サーバーでは、これらのクライアントを DNS サーバーに登録します。
4. このガイドラインの詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/ee404786%28WS.10%29.aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

DHCP を使用して、クライアントを DNS サーバーに適切に登録できる。

##### 例外:

なし

シナリオ 4 - 情報更新時間オプション (オプション 32)

##### 目的:

情報更新時間オプション (オプション 32) を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 に DHCP サーバーの役割をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. Windows Server 2008 R2 SP1 を実行している DHCP サーバーに、さIpv6 スコープを構成します。テスト対象のクライアントをステートレス モードにします (Windows クライアントで、M フラグに 0 を設定して、O フラグに 1 を設定します)。
2. これらのクライアントでは、自動的に IPv6 アドレスが構成され、他の構成パラメーターは、DHCP サーバー経由でのみ取得します。クライアントは、情報更新時間オプションの値に基づいて、DHCP サーバーからオプションを取得し直す必要があります。したがって、DHCP サーバーで、クライアントがオプションを取得後、更新されるまでの間に取得したオプションが変更された場合は、更新後にクライアントに変更内容が反映されます。
3. このガイドラインの詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc722532.aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

クライアントがオプションを取得後、更新されるまでの間に、DHCP サーバーでオプションに関する変更が行われた場合は、更新後にクライアントに変更内容が反映される。

##### 例外

なし

### ネットワーク負荷分散

#### NLB における品質向上

Windows Server 2008 R2 SP1 の NLB では、拡張アフィニティの機能と信頼性が向上しました。

#### 重要なシナリオ

シナリオ 1 - 拡張可能なショッピング カートの Web アプリケーション

##### 目的:

拡張アフィニティで強化された機能について確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

IIS がインストールされた3ノード構成のNLB クラスター

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

このシナリオでは、同じ Web アプリケーションを 2 台のコンピューターにインストールします。この 2 台のコンピューターは NLB クラスターに含まれるため、クライアント トラフィックがクラスター IP アドレスに到達すると、2 台のコンピューターの間で負荷が分散されます。そのため、Web アプリケーションにアクセスしたクライアントに迅速に応答できるようになります。最初に、2 つのノードで構成されたクラスターを用意し、クライアント トラフィックの量が多い状態で、クラスターにノードをもう 1 つ追加します。拡張アフィニティが有効であれば、クライアントの状態情報は、クラスターを構成するいずれか 1 台のサーバーで管理されます。このシナリオは、クライアントの状態をサーバーで保持する必要がある Web アプリケーションに適用できます。このガイドラインの詳細については、<http://blogs.msdn.com/clustering/archive/2009/10/21/9910338.aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

クライアントの状態情報が、クラスターを構成するいずれか 1 台のサーバーで管理される。

##### 例外:

なし

**シナリオ 2 - 2 通りの拡張アフィニティを使用したスプリット ブレイン**

##### 目的:

拡張アフィニティで強化された機能について確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

SP1 がインストールされた、2 ノード構成のNLBクラスターと 1 台のクライアント コンピューター

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

2 つのノードで構成された NLB クラスターを作成します。ノードの一方を停止します (たとえば、Node2 を停止します)。クライアントから NLB クラスターに接続要求を送信します。ここで、Node1 では、クライアントに対して拡張アフィニティを使用します。Node1 を停止して、Node2 を再開します。クライアントから NLB クラスターに接続を送信します。ここで、Node2 では、クライアントに対して拡張アフィニティを使用します。Node1 を再開します。NLB クラスターが一元化され、クライアントでは、いずれか 1 つのノードに対してのみ拡張アフィニティを使用していることを確認します。このガイドラインの詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc754833(WS.10).aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

NLB クラスターが一元化され、クライアントには、いずれか 1 つのノードのみが拡張アフィニティを使用する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 3 - 統合された NLB を使用した TMG サーバー**

##### 目的:

TMG (ThreatManagement Gateway、旧称ISA )サーバーと NLB の統合を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

4 つ以上のノードと TMG サーバーで構成されたクラスター

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

TMG サーバーのアレイを構成して、内部ネットワークを保護します。TMG アレイで、統合された NLB を有効にします。送受信トラフィックは TMG サーバー間で負荷分散され、クラスターの運用時にスプリット ブレインが発生することはありません。このガイドラインの詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb794741.aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

送受信トラフィックは TMG サーバー間で負荷分散され、クラスターの運用時にスプリット ブレインが発生しない。

##### 例外:

なし

### BranchCache

#### BranchCacheとは

BranchCache を使用すると、ブランチ オフィスのユーザーが混雑して低速な接続を利用してサーバーにアクセスする際、WAN リンクの使用量を削減し、アプリケーションの応答性が向上します。クライアントは、リモート サーバーではなく、ブランチ オフィスにあるキャッシュからデータを取得します。キャッシュは、ブランチ オフィスのクライアントに分散される場合 (分散キャッシュ モード) と、ローカル サーバーに配置される場合 (ホスト型キャッシュ モード) があります。

BranchCache は、Windows 7 クライアントと、HTTP、SMB、および BITS プロトコルを使用してアクセスできるコンテンツをホストする Windows Server 2008 R2 サーバー間でのみ機能します。BranchCache は、クライアントでは既定で無効になっており、サーバーにはインストールする必要があります。

#### 重要なシナリオ

シナリオ 1 – リモート オフィスの展開 (ホスト型キャッシュ モード)

##### 目的:

ホスト型キャッシュ モードを使用した場合のリモート オフィスにおける BranchCache の機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

SP1 をインストールした 2 台のクライアントと 2 台のサーバー

##### 適用:

サーバーとクライアント

##### ステップ:

ホスト型キャッシュ モードでは、リモート オフィスのクライアントは、キャッシュ可能なコンテンツの格納と取得に、リモート オフィスに展開されたサーバーを使用します。このシナリオをテストするには、2 台のクライアントと 2 台のサーバーが必要です。一方のサーバーでは、BranchCache で使用可能なプロトコル (HTTP または SMB) のいずれかを使用してコンテンツを提供し、もう一方のサーバーは、コンテンツを格納して提供するホスト型キャッシュ サーバーとして機能します。このシナリオでは、1 台目のクライアントが、コンテンツ サーバーからデータをダウンロードしてホスト型キャッシュ サーバーにデータを格納します。2 台目のクライアントが同じコンテンツをダウンロードする際には、コンテンツ サーバーではなく、ホスト型キャッシュ サーバーからデータを取得します。

このガイドラインの詳細については、<http://download.microsoft.com/download/3/0/A/30A908BE-CC68-42EB-8B50-24DB0955EDBF/BranchCache_Deploy_ja.doc> を参照してください。

##### 期待される動作:

このシナリオでは、1 台目のクライアントが、コンテンツ サーバーからデータをダウンロードして、ホスト型キャッシュ サーバーにデータを格納します。2 台目のクライアントが同じコンテンツをダウンロードする際には、コンテンツ サーバーではなく、ホスト型キャッシュ サーバーからデータを取得します。

##### 例外:

なし

シナリオ 2 – リモート オフィスの展開 (分散キャッシュ モード)

##### 目的:

分散キャッシュ モードを使用した場合のリモート オフィスにおける BranchCache の機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

SP1 をインストールした 2 台のクライアントと 1 台のサーバーを用意する。

##### 適用:

サーバーとクライアント

##### ステップ:

分散キャッシュ モードでは、ブランチ オフィスのクライアントはコンテンツをローカルにキャッシュし、必要に応じて相互にデータを提供します。このシナリオをテストするには、2 台のクライアントと 1 台のサーバーが必要です。サーバーでは、BranchCache で使用可能なプロトコル (HTTP または SMB) のいずれかを使用して、コンテンツを提供します。このシナリオでは、1 台目のクライアントが、コンテンツ サーバーからデータをダウンロードして、ローカルにキャッシュします。2 台目のクライアントが同じコンテンツをダウンロードする際には、コンテンツ サーバーではなく、同僚のコンピューター (1 台目のクライアント) のキャッシュからデータを受け取ります。

このガイドラインの詳細については、http://download.microsoft.com/download/3/0/A/30A908BE-CC68-42EB-8B50-24DB0955EDBF/BranchCache\_Deploy\_ja.doc を参照してください。

##### 期待される動作:

このシナリオでは、1 台目のクライアントが、コンテンツ サーバーからデータをダウンロードして、ローカルにキャッシュします。2 台目のクライアントが同じコンテンツをダウンロードする際には、コンテンツ サーバーではなく、近くのコンピューター (1 台目のクライアント) のキャッシュからデータを受け取ります。

##### 例外:

なし

## ストレージ

### ファイル サーバー リソース管理

#### ファイル サービスにおける品質向上

Windows Server 2008 R2 SP1 のファイル サーバー リソース管理では、ファイル分類管理のスケーラビリティと信頼性が向上しました。

#### 重要なシナリオ

シナリオ 1 – 大量のファイルにおけるコンテンツ分類子の使用

##### 目的:

FSRM に組み込まれているコンテンツ分類子の正規表現を使用して、さまざまなファイル (テキスト ファイル、Office ドキュメントなど) を分類する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 に、ファイル サーバー リソース管理 (FSRM) の機能をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. Business Impact (HBI、MBI、および LBI) など、FSRM の分類プロパティを構成します。
2. 新しい分類規則を作成して、ローカル フォルダーまたはマウント ポイントを管理します。ファイル分類管理 (FCI) では、大量のファイルを処理できます。
3. この分類規則を構成し、内容に応じてファイルを分類します。コンテンツ分類子を分類子として使用し、正規表現を使用するようにコンテンツ分類子を構成します。
4. 分類をすぐに実行するか、自動分類スケジュールを構成して分類を定期的に実行します。分類は、特定の時間帯 (ピーク時以外の時間など) に実行するように構成できます。スケジュールされた時間帯に分類が完了しなかった場合、次の時間帯に再開されます。
5. いくつかのファイル管理タスクを構成して、分類結果に基づいて動作するようにします。管理タスクは、ファイル管理タスクを作成および編集する際に、[条件] タブで設定して構成できます。このようなタスクの例としては、Business Impact プロパティが HBI に分類されるファイルに、暗号化を適用します。
6. 詳細については、<http://blogs.technet.com/filecab/archive/2009/05/11/classifying-files-based-on-location-and-content-using-the-file-classification-infrastructure-fci-in-windows-server-2008-r2.aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

* ファイルは、内容に応じて適宜分類されます。分類規則で構成されている場所にあるファイルのサイズや量は関係ありません。
* FSRM で設定される Office ドキュメントの分類プロパティは、ドキュメントが Microsoft Office で開かれるときに、ファイルのプロパティから読み取られます。
* ファイル管理タスクは、スケジュールに基づき、ユーザーが指定した一連のファイルで、特定の操作 (ファイルの暗号化など) を実行します。
* マウントされたボリュームにあるファイルも、他のファイルと同様に分類および操作されます。
* 読み取り専用のファイルは、自動分類ではスキップされます。
* FSRM による分類結果は累積されるので、同じ一連のファイルで 2 回目の分類を行うと、分析にかかる時間が大幅に短くなります (ただし、ユーザーが異なる構成を設定している場合は除きます)。

##### 例外:

なし

シナリオ 2 - クラスター環境における FCI と他の FSRM 機能の併用

##### 目的:

クラスター環境における FCI の機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

複数のサーバー コンピューターを用意して、ファイル サーバー リソース管理 (FSRM) 機能とクラスター機能をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. クラスター ボリュームのフォルダーで、クォータ (NTFS ディスク クォータではなく FSRM クォータ) を構成します。たとえば、フォルダーのデータの上限を 1 GB に設定するなど、ハード制限を設定します。
2. クォータを設定したフォルダーにあるファイルのファイル スクリーン処理を構成します。たとえば、MP3 ファイルや AVI ファイルをフォルダーに配置できないようにします。
3. フォルダー内のファイルに関する、ファイル分類を構成します。たとえば、"機密情報" という言葉が含まれているファイルは、すべて HBI (High Business Impact) として分類されるようにします。
4. フォルダーで分類を実行します。
5. 分類に該当するファイル サーバー リソースを、クラスターの他のノードに移動します。

##### 期待される動作:

* FSRM のすべての機能は、相互作用によってクラスター ボリュームのフォルダーに影響を与える場合でも、正しく機能する。
* リソースを移動したり、フェールオーバーが発生したりすると、FSRM の設定は、すぐに対応するノードにそのまま移行し、新しいノードでそれまでと同じように機能する。

##### 例外:

なし

## サーバー テクノロジ

### DNS

#### DNS サーバーにおける品質向上

* インターネットに接続された DNS サーバーでは、内部名と (インターネットに公開する) 外部名をすべて解決できます。
* AD との統合とフォレストの回復メカニズムが向上しました。
* DNSSEC は、DNS キャッシュの侵害などの、特定の攻撃からインターネットを保護するように設計されました。DNSSEC は DNS の拡張で、DNS データの発信元の認証、データの整合性の維持、また非存在の認証が可能になります。これらのメカニズムにより、DNS プロトコルが変更されます。また、DNSSEC によって、リソース レコードの署名 (RRSIG)、DNS 公開キー (DNSKEY)、委任署名者 (DS)、および Next Secure (NSEC) という 4 つの新しいレコードの種類が追加されました。これらの新しいリソース レコードの詳細については、RFC 4034 で定義されています。

#### 重要なシナリオ

シナリオ 1 – EDNS の調査と名前の解決

##### 目的:

インターネットに接続された DNS サーバーで、内部名と (インターネットに公開する) 外部名をすべて解決できることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. インターネットに接続する転送先サーバーに、Windows Server 2008 R2 SP1 をインストールします。
2. EDNS を有効にします (「dnscmd /config /EnableEDnsProbes 1」というコマンドを実行します)。
3. ルーターとファイアウォールの内側にある DNS サーバーが、SP1 のインストール後に名前を解決できることを確認します。
4. 内部名と外部名がすべて解決されることを確認します。

##### 期待される動作:

すべての内部名と (インターネットに公開する) 外部名が解決される。

##### 例外:

なし

シナリオ 2 – Active Directory との統合とフォレストの回復

##### 目的:

DNS の Active Directory との統合とフォレストの回復メカニズムが機能することを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Active Directory 統合ゾーンをホストしている DNS サーバーに SP1 をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. Active Directory 統合ゾーンをホストしている DNS サーバーに SP1 をインストールします。
2. マイクロソフトのホワイト ペーパーを [http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx? displaylang=en&FamilyID=326c8a7a-dcad-4333-9050-a6303ff3155c](http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?%20displaylang=en&FamilyID=326c8a7a-dcad-4333-9050-a6303ff3155c) (英語) で参照して、フォレストの回復を実行します。
3. Active Directory 統合ゾーンでゾーン転送を試行し、SP1 のインストール後も、メモリの消費量が増加しないことを確認します。

##### 期待される動作:

SP1 のインストール後も、ゾーン転送でメモリの消費量が増加しない。

##### 例外:

なし

**シナリオ 3 - DNSSEC**

##### 目的:

静的なゾーン、トラスト アンカーの構成、キーのロールオーバーに署名するときに展開が妨害される問題を確認して修正する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

展開のガイドラインについては、<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=7a005a14-f740-4689-8c43-9952b5c3d36f&DisplayLang=en> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

* DNSSEC 展開のパフォーマンスと機能は、RTM から変更されていない。
* DNSSEC の署名済みゾーンは、パフォーマンスが大幅に低下することなく、通常の DNS サーバーの展開と同時に展開できる。

##### 例外:

なし

### リモート デスクトップ サービス (ターミナル サービス)

#### リモート デスクトップ サービスにおける品質向上

Windows Server 2008 SP2 SP1 では、リモート デスクトップ サービス (ターミナル サービス) の問題が解消され、信頼性、スケーラビリティ、およびセキュリティが向上しました。

#### 重要なシナリオ

シナリオ 1 – リモート デスクトップ接続

##### 目的

バージョンの不一致があることを示すエラー メッセージが表示されることなくリモート デスクトップ接続を実行できることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

クライアント コンピューターとサーバー コンピューターでは、Windows 7 SP1 または Windows Server 2008 R2 SP1 のどちらかを実行する。

##### 適用:

サーバーとクライアント

##### ステップ:

Mstsc.exe を実行するか、[スタート] メニューから [リモート デスクトップ接続] を実行します。

##### 期待される動作:

リモート デスクトップを正常に起動できる。

##### 例外:

なし

**シナリオ 2 – リモート デスクトップ サービスの大規模な展開**

##### 目的:

機能エラーが発生することなくデスクトップ接続を実行できる。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 をサーバーにインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

この[手順ガイド](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd883275(WS.10).aspx)を使用して、Windows Server 2008 R2 SP1 サーバーに、リモート デスクトップ セッション ホストをインストールします。リモート デスクトップ (RD) Web アクセス役割サービスもインストールします。また、デバイスのリダイレクトやマルチ モニターなどのクライアントの機能をすべて有効にします。

##### 期待される動作:

RD ゲートウェイまたは RAS 経由で、イントラネット内のコンピューターに接続できる。

Windows 7、Windows Vista、Windows XP、Windows Server 2003 から、さまざまなネットワーク経由で接続できる。

##### 例外:

なし

**シナリオ 3 – リモート デスクトップの仮想化**

##### 目的:

社内のユーザーが仮想デスクトップ環境 (VDI) を利用できるようにする。また、リモート デスクトップの仮想化では、リソースの統合だけでなく、このような仮想化されたリソースの検出メカニズムにもはっきりと照準が定められていることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 ベースの、RD 接続ブローカー、RD Web アクセス サーバー、および 4 台のリモート デスクトップ仮想化ホストを用意する。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. 4 台のリモート デスクトップ仮想化ホストをセットアップします。
2. 少なくとも 4 台の仮想マシンのプールを展開し、4 台のクライアント用仮想マシンを構成します。
3. RD 接続ブローカーとRD Web アクセス サーバーを展開する必要もあります。

##### 期待される動作:

リモート デスクトップの仮想化が適切に機能する。仮想デスクトップ環境を展開できる。

##### 例外:

なし

**シナリオ 4 - クラスター化されたRD 接続ブローカーのあるリモート デスクトップ セッション ホスト ファーム**

##### 目的:

リモート デスクトップ セッション ホスト ファームが、RD 接続ブローカーによって適切に管理されことを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 がインストールされた 6 台のサーバーを用意する。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. Windows Server 2008 R2 SP1 が実行されている 6 台のサーバーに、リモート デスクトップ セッション ホストの役割をインストールします。
2. RD 接続ブローカーの役割用に、2 つのノードで構成されたフェールオーバー クラスターをセットアップします。
3. RD Web アクセス サーバーをセットアップします。
4. 6 台の リモート デスクトップ セッション ホスト サーバーをファームに参加させます。

##### 期待される動作:

リモート デスクトップ セッション ホストの可用性が向上する。

##### 例外:

なし

### ディレクトリ サービス

#### ディレクトリ サービスにおける品質向上

Windows Server 2008 R2 SP1 では、ディレクトリ サービスの問題が解消され、機能と信頼性が向上しました。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 - 名前空間の不整合**

##### 目的:

名前空間の不整合の環境 (コンピューターのプライマリ DNS サフィックスが、そのコンピューターに存在する DNS ドメイン名に一致していない状態) において、正常に Active Directory ドメインが動作することを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

既存のドメインを 2 つ用意する。Windows Server 2008 R2 SP1 をサーバーにインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. 2 つのドメインを作成します。
2. <http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd378921(WS.10).aspx> のガイドラインに従います。

##### 期待される動作:

1 台以上のドメイン メンバー コンピューターに、そのコンピューターが所属する Active Directory ドメインの DNS 名と一致しないプライマリ DNS サフィックスが設定されている場合に、Active Directory が正常に機能する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 2 – 境界ネットワーク (通称 DMZ) の Active Directory ドメイン サービス**

##### 目的:

Active Directory ドメイン サービスが境界ネットワークで適切に機能することを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

既存のドメインを 1 つ用意する。Windows Server 2008 R2 SP1 をサーバーにインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

展開のガイドラインについては、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd728034(WS.10).aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

境界ネットワーク環境の Active Directory で、機能のエラーが発生しない。

##### 例外:

なし

**シナリオ 3 – 遅延の大きいネットワーク環境における Active Directory の遅延サイト**

##### 目的:

遅延の大きいネットワーク環境におけるドメイン コントーローラー間の複製が正常に行われることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

既存のドメインがあり、サーバーに Windows Server 2008 R2 SP1 がインストールされている。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

展開のガイドラインについては、<http://blogs.technet.com/askds/archive/2008/10/20/lag-site-or-hot-site-aka-delayed-replication-for-active-directory-disaster-recovery-support.aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

遅延の大きいネットワーク環境でドメイン コントローラー間の複製が正常に行われる。

##### 例外:

なし

**シナリオ 4 – Hyper-V のドメイン コントローラー**

##### 目的:

仮想化されたドメイン コントローラーが適切に機能することを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 (Standard Edition、Enterprise Edition、Foundation Edition、または Datacenter Edition) をサーバーにインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

展開のガイドラインについては、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/virtual_active_directory_domain_controller_virtualization_hyperv(WS.10).aspx> を参照してください。

##### 期待される動作:

仮想化されたドメイン コントローラーで、機能のエラーが発生しない。

##### 例外:

なし

**シナリオ 5 – 証明書ベースの認証インフラストラクチャ**

##### 目的:

証明書ベースの認証インフラストラクチャの機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

要件については、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc730847(WS.10).aspx> を参照してください。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

証明書ベースのログオン方法 (スマートカード ログオンなど) が使用され、認証メカニズムの保証を有効にすると、ログオン時、追加のグループのメンバーシップがユーザーのアクセス トークンに追加されます。展開のガイドラインについては、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc730847(WS.10).aspx> を参照してください。

##### 期待される動作:

証明書ベースの認証インフラストラクチャが、Active Directory 環境で適切に機能する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 6 – ブランチ オフィスのトポロジ**

目的:

ブランチ オフィスのトポロジと機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

SP1 がインストールさた既存の読み取り専用ドメイン コントローラー (RODC) を準備する。

適用:

サーバー

##### ステップ

リモート オフィスが、情報技術 (IT) インフラストラクチャの保護や管理にコストをかけずに、データの局所性やサービスの局所性によるメリットを得られるのが理想的な戦略です。RODC では、リモート オフィスに必要なデータをキャッシュすることが可能なため、特定の管理タスクを委任するので、まさにその戦略を実現できます。展開のガイドラインについては、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd734758(WS.10).aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

RODC が、既存の環境でも正常に機能する。

##### 例外:

なし

シナリオ 7 – 管理されたサービス アカウント

##### 目的:

リモート オフィスのトポロジと機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

管理されたサービス アカウントは、ドメイン環境で運用しているアプリケーションのさまざまなサービスを実行するのに使用します。詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd378925(WS.10).aspx> (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

リモート オフィスで実行されているアプリケーションのサービスが、管理されたサービス アカウントで適切に動作する。

##### 例外:

なし

シナリオ 8 – オフライン ドメイン参加

##### 目的:

リモート オフィスのトポロジと機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

オフライン ドメイン参加を使用すると、ネットワーク経由でドメイン コントローラーと通信しなくても、ドメインにコンピューターを参加させることができます。オペレーティング システムのインストール後、コンピューターを初めて起動するときにコンピューターをドメインに参加させられます。ドメイン参加の手続きを完了するためにコンピューターを再起動する必要はありません。この機能により、データセンターなどで、大規模なコンピューターの展開を行うのに必要な時間と手間が省けます。詳細については、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd391977(WS.10).aspx> を参照してください。

##### 期待される動作:

ドメイン コントローラーにアクセスしなくても、リモート オフィスでコンピューターを適切に展開できる。

##### 例外:

なし

### インターネット インフォメーション サービス (IIS)

#### IIS における品質向上

ここでは、IIS の FTP の発行機能を確認します。

#### 重要なシナリオ

シナリオ 1 – FTP サイトの発行と構成

##### 目的:

FTP の発行機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=89115> (英語) の手順に従って、新しい FTP サイトを作成します。
2. <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=89116> (英語) の手順に従って、既存の Web サイトに FTP 発行を追加します。
3. <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=89117> (英語) の手順に従って、SSL 経由で FTP を構成します。
4. <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=89118> (英語) の手順に従って、FTP ユーザーの分離を構成します。
5. <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=89119> (英語) の手順に従って、FTP 仮想ホスト名を構成します。
6. <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=100090> (英語) の手順に従って、FTP のファイアウォールの設定を構成します。
7. <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=100092> (英語) の手順に従って、FTP で使用するフォルダーのクォータを構成します。
8. <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=100142> (英語) の手順に従って、FTP に IIS マネージャー認証を構成します。

##### 期待される動作:

FTP サイトが適切に発行できる。

##### 例外:

なし

### クラスタリングと高可用性

#### クラスタリングと高可用性における品質向上

クラスター サービスでは、クラスター検証テスト (CVT) における複雑な MPIO 構成のサポートが向上しました。この変更により、仮想マシン規模のフェールオーバー サービス (clussvc) と UI (cluadmin) が有効になりました。

#### 重要なシナリオ

シナリオ 1 – 仮想マシン規模のフェールオーバー サービス (clussvc) と UI (cluadmin)

##### 目的:

Hyper-V で実行されている仮想マシンが、Dynamic Memory 機能を適宜使用できることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 をインストールし、Hyper-V の役割をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. 2つ以上のノードでクラスターを構成し、各ノードに 64 ビットの仮想マシンを作成します。各仮想マシンは、 Dynamic Memory を使用するように構成する必要があります。各仮想マシンに、ある程度の負荷をかけ、メモリの割り当てと解放が行われるようにします。
2. すべての仮想マシンをクラスター管理下に配置します。このガイドラインの詳細については、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd197477(WS.10).aspx> (英語) を参照してください。
3. ライブ マイグレーション (cluadmin コマンドを使用する)、クイック マイグレーション (cluadmin コマンドを使用する)、フェールオーバー (cluadmin コマンドを使用する)、およびコンピューターの障害 (予期される再起動と予期しない再起動) のシナリオについて確認します。

##### 期待される動作:

仮想マシン間でフェールオーバー サービスが適切に機能する。

Dynamic Memory の管理メカニズムが適切に機能する。

##### 例外:

なし

シナリオ 2 – 複雑な MPIO のセットアップにおける CVT

##### 目的:

複雑な MPIO のセットアップで CVT が適切に機能することを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. クラスターを、8 つ以上のノードで構成します。また、各ノードには、ディスクへの MPIO パスが 8 つ以上あるようにします。ガイドラインについては、<http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd197477(WS.10).aspx> (英語) を参照してください。
2. CVT を実行します。

##### 期待される動作:

クラスター検証テストに関連するすべてのディスクが合格する。

##### 例外:

なし

### ADFS

#### ADFS とは

Active Directory フェデレーション サービス (ADFS) は、Windows Server 2008 R2 のサーバーの役割で、Web シングル サインオン (SSO) テクノロジを使用して、単一のオンライン セッションで複数の Web アプリケーションに対してユーザーを認証します。

ADFS の詳細については、TechNet の記事<http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd391937(WS.10).aspx> (英語)を参照してください。

#### 重要なシナリオ

シナリオ 1 – 従来の 2 つのフォレストのフェデレーション Web SSO シナリオ

##### 目的:

SAML セキュリティ トークンをサインアウト後に解放できることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用

サーバー

##### ステップ

展開のガイドラインについては、<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc757344(WS.10).aspx> を参照してください。

##### 期待される動作:

サインアウト後、SAML セキュリティ トークンが、リソースへのアクセスにも使用できる。

##### 例外:

なし

**シナリオ 2 – 一方向のフォレストの信頼関係がある 2 つのフォレストの ADFS シナリオ**

目的:

一方向のフォレストの信頼関係がある 2 つのフォレストの ADFS が適切に機能することを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

展開のガイドラインについては、http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd378921(WS.10).aspx を参照してください。 期待される動作:

一方向のフォレストの信頼関係がある、2 つのフォレストの ADFS が適切に機能する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 3 - マイクロソフト以外のフェデレーション サービスとの相互運用**

##### 目的:

ADFS が、マイクロソフト以外のフェデレーション サービスと適切に相互運用できることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

展開のガイドラインについては、http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd378921(WS.10).aspx を参照してください。

##### 期待される動作:

ADFS とマイクロソフト以外のフェデレーション サービスがどちらも適切に機能する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 4 – 古いバージョンの ADFS との相互運用**

##### 目的:

ADFS が、古いバージョンの ADFS と適切に相互運用できることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

ADFS 展開のガイドラインについては、http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd378921(WS.10).aspx を参照してください。 期待される動作:

Windows Server 2008 R2 SP1 の ADFS と Windows Server 2003/2008 の ADFS がどちらも適切に機能する。

##### 例外:

なし

### Rights Management Services サーバー

#### RMS における品質向上

1. マイクロソフト以外のフェデレーション サービスのサポート: ADRMS では、マイクロソフト以外のフェデレーション サービスがサポートされるようになりました。
2. Office for Mac のサポート: RMS サーバーで、Office for Mac がサポートされるようになりました。
3. MFG への対応: Microsoft Federation Gateway (MFG) との統合が可能になり、組織の境界を越えて認証ができるようになりました。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 – フェデレーション グループ拡張**

##### 目的:

フェデレーション グループ拡張を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. フェデレーション環境で、グループ拡張を実行します。
2. リソース ドメインからドキュメントを発行して、アカウント ドメイン内のグループのアクセスを制限します。

##### 期待される動作:

アカウント ドメイン グループのユーザーが、適宜ドキュメントを開くことができる。

##### 例外:

なし

**シナリオ 2 – SQM のサポート**

##### 目的:

RMS 機能が SQM の影響を受けないことを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

RMS サーバーで CEIP を有効にします。

##### 期待される動作:

RMS 機能が SQM の影響を受けない。

##### 例外:

なし

**シナリオ 3 – RMS の管理に Windows PowerShell を使用する**

##### 目的:

Windows PowerShell を使用して RMS の設定を構成できることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. RMS をセットアップします。
2. Windows PowerShell を使用し、サーバー設定、ポリシー設定、フェデレーションの設定など、RMS サーバーを構成します。

##### 期待される動作:

Windows PowerShell を使用して RMS サーバーを構成できる。

##### 例外:

なし

**シナリオ 4 – RMS のセットアップに Windows PowerShell を使用する**

##### 目的:

Windows PowerShell を使用して RMS サーバーをセットアップできることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

Windows PowerShell を使用して、RMS をセットアップして準備します。

##### 期待される動作:

RMS が適切にセットアップされる。

##### 例外:

なし

**シナリオ 5 - マイクロソフト以外のサーバーへのフェデレーションのサポート**

##### 目的:

ADRMS で、マイクロソフト以外のフェデレーション サーバーをサポートできることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. RMS サーバーをセットアップします。
2. マイクロソフト以外のフェデレーション サーバーをセットアップします。
3. RMS サーバーがマイクロソフト以外のフェデレーション サーバーで適切に動作することを確認します。

##### 期待される動作:

RMS サーバーが、マイクロソフト以外のフェデレーション サーバーで適切に動作する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 6 – Office for Mac のサポート**

##### 目的:

Office for Mac をサポートする RMS の機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. RMS サーバーをセットアップします。
2. Office for Mac をセットアップします。
3. RMS サーバーで Office for Mac がサポートされることを確認します。

##### 期待される動作:

RMS が Office for Mac に対して適切に動作する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 7 – 認証の更新**

##### 目的:

RMS サーバーが Microsoft Federation Gateway と統合されていることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

RMS サーバーをセットアップして、Microsoft Federation Gateway と統合します。

##### 期待される動作:

認証が、組織の境界を越えて適切に機能する。

##### 例外:

なし

### ネットワーク アクセス保護

#### ネットワーク アクセス保護とは

ネットワーク アクセス保護 (NAP) は、クライアント コンピューターの ID とコーポレート ガバナンス ポリシーへの準拠状態を基にネットワーク リソースへのアクセスを制御する、新しいプラットフォームとソリューションです。ネットワーク管理者は、NAP を使用することで、クライアントが誰だれであるか、クライアントがどのグループに所属しているか、そのクライアントがコーポレート ガバナンス ポリシーにどの程度準拠しているかに基づいて、ネットワーク アクセスのレベルを詳細に定義できます。クライアントがコーポレート ガバナンス ポリシーに準拠していない場合、NAP では、自動的にそのクライアントを準拠状態に戻し、それからネットワーク アクセスのレベルを動的に上げるメカニズムを提供します。

NAP の詳細については、TechNet の記事 (http://technet.microsoft.com/en-us/network/bb545879.aspx、英語) で参照してください。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 – IPSec 実施における NAP**

##### 目的:

IPSec 実施シナリオで、NAP 機能が適切に機能することを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 および Windows 7 SP1 を用意する。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. NAP 証明機関を展開します。
2. HRA サーバーを展開します。
3. NAP 正常性ポリシー サーバーを展開します。
4. IPSec 実施のポリシーを構成します。
5. NAP クライアントの設定を展開します。
6. NAP の IPSec ポリシーを展開します。
7. 詳細については、展開のガイドラインを http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=298ff956-1e6c-4d97-a3ed-7e7ffc4bed32 で参照してください。

##### 期待される動作:

展開後、NAP プラットフォームが IPSec 環境で適切に機能する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 2 – DHCP 実施における NAP**

##### 目的:

DHCP 実施シナリオで、NAP が適切に機能することを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 および Windows 7 SP1 を用意する。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

展開のガイドラインについては、http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=ac38e5bb-18ce-40cb-8e59-188f7a198897 を参照してください。

##### 期待される動作:

展開後、NAP プラットフォームが DHCP 環境で適切に機能する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 3 – VPN の NAP 強制**

##### 目的:

NAP で VPN を実施する方法を使用して、VPN における NAP 強制を、リモート クライアントに組織のコンプライアンス ポリシーを適用するのに使用できる。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 および Windows 7 SP1 を用意する。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

展開のガイドラインについては、http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=729bba00-55ad-4199-b441-378cc3d900a7 を参照してください。

##### 期待される動作:

展開後、NAP プラットフォームが VPN 環境で適切に機能する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 4 – 802.1X 実施における NAP**

##### 目的:

802.1x 実施シナリオで、NAP 機能が適切に機能することを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

なし

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

展開のガイドラインについては、http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=8a0925ee-ee06-4dfb-bba2-07605eff0608 を参照してください。

##### 期待される動作:

展開後、NAP プラットフォームが 802.1x 環境で適切に機能する。

##### 例外:

なし

### 分散ファイル システム/レプリケーション

#### 分散ファイル システム/レプリケーション

DFS レプリケーション サービスは、分散された複数のマスター ファイルのレプリケーション サービスで、NT ファイル レプリケーション サービス (FRS) に代わるサービスとして設計され、一般的に次の理由で使用されます。

1. 次の目的を達成するための、ファイル サーバー間のファイルとフォルダーのレプリケーション

* いくつかのブランチ オフィスのサーバーからデータセンターへの WAN を通じたデータの統合
* 更新プログラム、ソフトウェア、ドキュメント、および他の一般的な基幹業務アプリケーション データのリモート オフィスのファイル サーバーへのレプリケーション

1. Windows Server 2008 ドメインの機能レベル以上で実行されているドメイン コントローラーの SYSVOL 共有のコンテンツのレプリケーション

多くの企業顧客が、社内で可用性の高いサービスを提供するために、クラスター ハードウェアとインフラストラクチャに莫大な投資を行っています。また、このような顧客は、ファイル レプリケーションのニーズを満たすために、この莫大な投資を活用したいと考えています。またさらに、クラスター環境で企業のデータ センターのサーバーを運用し、ブランチ オフィスに "常時稼動している" レプリケーション サービスを提供したいと考えています。このクラスター環境は、個々のデータ センターのサーバーにおける (ハードウェアとソフトウェアの) 障害から迅速に回復する力が必要なので、データ センターの SLA の厳格な可用性の基準を企業が達成するのに役立ちます。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 – RODC の Sysvol レプリケーション**

##### 目的:

DFS レプリケーション サービスの新機能で、特定のレプリケート フォルダーを読み取り専用として構成できることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 および Windows 7 SP1 を用意する。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

Windows Server 2008 R2 には、DFS レプリケーション サービスの新機能の 1 つとして、特定のレプリケート フォルダーを読み取り専用に構成するという機能があります。読み取り専用のレプリケート フォルダーのコンテンツは、ローカルでは変更できませんが、DFS レプリケーション サービスによって、読み取りと書き込みが可能なレプリケート フォルダーのコンテンツとの同期が保たれます。また、特定のレプリケーション グループの特定のレプリケーション メンバー サーバーで、レプリケート フォルダーを読み取り専用として構成することも可能です。新しい読み取り専用のレプリケート フォルダーの設計は、Windows Server 2008 R2 ベースの RODC の SYSVOL レプリケート フォルダーまで拡張されました。SYSVOL レプリケート フォルダーのレプリケーションに DFS レプリケーション サービスを使用している RODC には、この新しいレプリケート フォルダー機能によるメリットがあります。このため、RODC の SYSVOL 共有のコンテンツを変更することはできません。

詳細については、http://blogs.technet.com/filecab/archive/2008/02/04/how-does-dfsr-function-on-read-only-domain-controllers.aspx (英語) を参照してください。

##### 期待される動作:

DSFR が、特定のレプリケート フォルダーを読み取り専用として構成できる。

##### 例外:

なし

### Windows Data Access Components (Windows DAC)

#### Windows DAC における品質向上

SP1 では、ActiveX Data Objects (ADO) とリモート デスクトップ サービスが変更され、信頼性、セキュリティ、および互換性が向上しました。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 – ConnectionString のプロパティを取得する ADO アプリケーション**

##### 目的:

メモリ リークが発生することなく、ADO アプリケーションを実行できる。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows 7 SP1 か Windows Server 2008 R2 SP1 が実行されているクライアント システムとサーバー システムを用意する。

##### 適用:

クライアントとサーバー

##### ステップ:

アプリケーションが、データ アクセス層で ADO を使用して、ADO の ConnectionString プロパティを取得します。

##### 期待される動作:

メモリ リークが発生しない。

##### 例外:

なし

**シナリオ 2 – ADO アプリケーションのバッチ更新**

##### 目的:

メモリ リークが発生することなく、ADO アプリケーションを実行できる。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows 7 SP1 か Windows Server 2008 R2 SP1 が実行されているクライアント システムとサーバー システムを用意する。

##### 適用:

クライアントとサーバー

##### ステップ:

アプリケーションが、データ アクセス層で ADO を使用して、SQL Server データベースにバッチ更新を送信します。

##### 期待される動作:

メモリ リークが発生しない。

##### 例外:

なし

**シナリオ 3 – リモート データ サービス (RDS)**

##### 目的:

Internet Explorer で KillBit としてマークされているオブジェクトを RDS アプリケーションが読み込まないことを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows 7 SP1 か Windows Server 2008 R2 SP1 が実行されているクライアント システムとサーバー システムを用意する。

##### 適用:

クライアントとサーバー

##### ステップ:

Web アプリケーションがリモート データ サービスに RDS を使用して、セキュリティが侵害されたサーバーから KillBit オブジェクトを受け取ります。

##### 期待される動作:

RDS が、受け取ったオブジェクトを検証して、KillBit オブジェクトを読み込まないことを保証する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 4 – ODBC の非同期接続**

##### 目的:

Windows 7 の ODBC 非同期接続機能に含まれている ODBC API は、ISO 9075:2008 で定義されている機能 ID を使用するため、ISO との互換性があります。この機能は、 SQLCancelHandle という 1 つの新しい API のみに含まれています。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows 7 SP1 か Windows Server 2008 R2 SP1 が実行されているクライアント システムとサーバー システムを用意する。

##### 適用:

クライアントとサーバー

##### ステップ:

アプリケーションで SQLGetFunctions を使用して機能 ID をクエリし、SQLCanCelHandle がドライバーでサポートされているかどうかを特定します。

##### 期待される動作:

アプリケーションが、機能 ID 2050 (ISO 9075:2008 で定義されている機能 ID) をクエリして、ODBC API の SQLCancelHandle がサポートされているかどうかを特定する。

(注: Windows 7 と Windows Server 2008 R2 RTM では、SQLCancelHandle に機能 ID 1022 が使用されます)

##### 例外:

なし

## クライアント テクノロジ (サーバーとクライアントの両方に該当)

### 印刷

#### 印刷における品質向上

Windows Server 2008 R2 SP1 の印刷機能では、印刷の管理およびスキャン管理の機能と信頼性が向上しました。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 - 印刷の管理**

##### 目的:

印刷の管理によって、ネットワーク上でのプリンターの共有と、プリント サーバーおよびネットワーク プリンターのタスク管理を一元化する。印刷の管理機能を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 をサーバーにインストールし、Windows 7 SP1 をクライアントにインストールする。

##### 適用:

サーバーとクライアント

##### ステップ:

印刷の管理スナップインは、Windows 7 が実行されているコンピューターには既定でインストールされていますが、Windows Server 2008 R2 が実行されているコンピューターにはインストールされていません。Windows Server 2008 R2 を実行しているコンピューターに印刷の管理スナップインをインストールするには、次のいずれかの方法を使用します。

* 印刷の管理スナップインをインストールして、サーバーをプリント サーバーとして構成するには、サーバー マネージャーで役割の追加ウィザードを使用して、印刷とドキュメント サービスとプリント サーバーの役割サービスの両方をインストールします。
* サーバーをプリント サーバーとして構成せずに印刷の管理スナップインをインストールするには、機能の追加ウィザードを使用して、リモート サーバー管理ツール機能の印刷サービス ツール オプションをインストールします。

Windows 7 または Windows Server 2008 R2 が実行されているコンピューターで印刷の管理を開くには、[スタート] ボタンをクリックして、[管理ツール] をポイントし、[印刷の管理] をクリックします。

詳細については、次のガイドラインを参照してください。

* 印刷の管理 (http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc766474.aspx)
* チェックリスト: プリント サーバーの展開 (http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc771729.aspx)
* プリンターおよびプリント サーバーの展開 (http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc770760.aspx)
* プリンターとプリント サーバーの管理 (http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc754769.aspx)

##### 期待される動作:

Microsoft 管理コンソール (MMC) の印刷の管理スナップインを使用して、ネットワーク上でプリンターを共有し、プリント サーバーとネットワーク プリンターの管理タスクを一元化できる。印刷の管理で、印刷キューを監視し、印刷キューが印刷ジョブの処理を中止したときに通知を受け取る。グループ ポリシーを使用して、プリント サーバーを移行してプリンター接続を展開する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 2 – スキャン管理**

##### 目的:

スキャン管理機能を確認する。スキャン サーバーを使用すると、Web Services on Devices （WSD） をサポートするスキャナーとの通信、スキャン プロセスの実行、スキャンされたドキュメントの送信、およびスキャン関連のイベントのログへの記録が可能になります。Windows Server 2008 R2 が実行されているコンピューターでは、サーバー マネージャーで、まず印刷とドキュメント サービスの役割をインストールして、それから分散スキャン サーバーの役割をインストールします。分散スキャン サーバーの役割サービスをインストールすると、スキャン管理スナップインがインストールされます。

スキャン サーバーがインストールされたら、スキャン サーバーの構成ウィザードを使用して、既存のサーバー設定を変更できます。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 をサーバーにインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

スキャン サーバーをインストールして構成するには、次の手順を実行します。

1. サーバー マネージャーを開きます。
2. 左ウィンドウで [役割] をクリックし、次の操作を実行します。
3. 印刷とドキュメント サービスの役割がインストールされていない場合は、右ウィンドウで [役割の追加] をクリックします。役割の追加ウィザードの指示に従って、ドメイン ユーザー サービス アカウント、ローカル一時フォルダー、スキャンされたドキュメントを電子メールで送信するための SMTP メール サーバー、サーバーの認証証明書、ユーザーおよびグループのセキュリティ アクセス許可を指定します。
4. 印刷とドキュメント サービスの役割が既にインストールされている場合は、左ウィンドウで [役割] をクリックし、[印刷とドキュメント サービス] をクリックします。役割の追加ウィザードの指示に従って、ドメイン ユーザー サービス アカウント、ローカル一時フォルダー、スキャンされたドキュメントを電子メールで送信するための SMTP メール サーバー、サーバーの認証証明書、ユーザーおよびグループのセキュリティ アクセス許可を指定します。

このガイドラインの詳細については、次を参照してください。

* スキャン管理 (http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd759124.aspx)
* スキャン管理の概要 (http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd759067.aspx)
* チェックリスト: スキャン管理をインストール、構成、および開始する (http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd871109.aspx)
* クライアント コンピューターから管理する (http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dd871137.aspx)

##### 期待される動作:

スキャン管理を使用して、ネットワーク スキャナーを監視したり、スキャン サーバーをインストールしたり、スキャンされたドキュメントを処理したり、ネットワーク フォルダー、Windows SharePoint Services Web サイト、およびドメイン ネットワークの電子メールの宛先に、スキャンされたドキュメントを送信したりすることができる。

例外:

なし

### ベータ版のRemoteFX のテスト

RemoteFX が有効になっている仮想マシンに、帯域幅が広く遅延の小さいネットワーク環境で、リモートデスクトップ接続を確立します。その後、次のような操作を実行します。

* ストリーミングされた Flash コンテンツ (youtube.com や hulu.com など) を再生する
* Silverlight コンテンツ (Bing 地図など) を使用する
* 生産性を向上するアプリケーション (Microsoft Outlook、Microsoft Word、Product Studio など) を使用して、入力の応答性や全体的な応答性を確認する
* DirectX アプリケーション (PowerPoint 2010 や Google Earth など) を使用する
* 企業の基幹業務アプリケーションを使用する
* お使いの環境にとってより有用な製品にするために、問題や動作を妨害するバグについては、https://connect.microsoft.com/WindowsServer/feedback/CreateFeedback.aspx (英語) までお寄せください。

### RemoteFX の手順ガイドと展開ドキュメント

* RemoteFX のハードウェア要件 (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=191918>、英語)
* RemoteFX の新機能 (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=192437>、英語)
* Deploying a Single Microsoft RemoteFX Server Step-by-Step Guide (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=177903>、英語)
* Deploying Microsoft RemoteFX for Personal Virtual Desktops Step-by-Step Guide (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=192429>、英語)
* Deploying Microsoft RemoteFX for Virtual Desktop Pools Step-by-Step Guide (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=192433>、英語)
* Configuring USB Device Redirection with Microsoft RemoteFX Step-by-Step Guide (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=192432>、英語)
* Hyper-V: Using Hyper-V and Failover Clustering (<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc732181(WS.10).aspx>、英語)

**シナリオ: RemoteFX の複数モニターのサポート**

* **サーバー (Hyper-V ホスト)**: RemoteFX が有効になっている 1 台以上の RD 仮想化ホスト サーバー
* **仮想マシン (Hyper-V ゲスト)**: RD 仮想化ホストで、RemoteFX が有効な仮想マシンをできるだけ多くホストする (各サーバーの GPU に割り当てられた VRAM の容量によります)。
* **シナリオ固有の要件**: 各 RemoteFX 仮想マシンに複数のモニターを割り当てる。これらの仮想マシンに、指定された数のモニターのあるクライアントから接続する。

次の表に、Windows Server 2008 R2 SP1 の RemoteFX でサポートされている最高解像度を示します。

| 最高解像度 | モニターの最大数 |
| --- | --- |
| 1024 x 768 | 4 |
| 1280 x 1024 | 4 |
| 1600 x 1200 | 3 |
| 1900 x 1200 | 2 |

* **期待される動作**: LAN 経由で接続したときに、複数のモニターがある RemoteFX の仮想マシンで、メディア アプリケーション、DirectX アプリケーション、および Office 製品が適切に機能する。

**シナリオ: RemoteFX での高解像度のサポート**

* **サーバー (Hyper-V ホスト)**: RemoteFX が有効になっている 1 台以上の RD 仮想化ホスト サーバー。
* **仮想マシン (Hyper-V ゲスト)**: RD 仮想化ホストで、RemoteFX が有効な仮想マシンをできるだけ多くホストする (各サーバーの GPU に割り当てられた VRAM の容量によります)。
* **シナリオ固有の要件**: 各 RemoteFX 仮想マシンに、少なくとも 1600 x 1200 の解像度を割り当てる。これらの仮想マシンに、指定された数のモニターのあるクライアントから接続する。

次の表に、Windows Server 2008 R2 SP1 の RemoteFX でサポートされている最高解像度を示します。

| **最高解像度** | **モニターの最大数** |
| --- | --- |
| 1024 x 768 | 4 |
| 1280 x 1024 | 4 |
| 1600 x 1200 | 3 |
| 1900 x 1200 | 2 |

* **期待される動作**: LAN 経由で接続したときに、解像度が高い RemoteFX の仮想マシンで、メディア アプリケーション、DirectX アプリケーション、および Office 製品が適切に機能する。

**シナリオ: 複数の GPU のサポート**

* **サーバー (Hyper-V ホスト)**: RemoteFX が有効になっている 1 台以上の RD 仮想化ホスト サーバー。各 RemoteFX サーバーに同一モデルの GPU が少なくとも 2 基ある。
* **仮想マシン (Hyper-V ゲスト)**: RD 仮想化ホストで、RemoteFX が有効な仮想マシンをできるだけ多くホストする (各サーバーの GPU に割り当てられた VRAM の容量によります)。
* **シナリオ固有の要件**: 各 RemoteFX サーバーに同一モデルの GPU が少なくとも 2 基ある。
* **期待される動作**: サーバーでホストできる仮想マシンとモニターの数が (単一の GPU を使用する場合と比較して) 2 倍になる。LAN 経由で接続したときに、RemoteFX の仮想マシンで、メディア アプリケーション、DirectX アプリケーション、および Office 製品が適切に機能する。

**シナリオ: RemoteFX の高可用性**

* **サーバー (Hyper-V ホスト)**: RemoteFX が有効になっている少なくとも 2 台の RD 仮想化ホスト サーバー。
* **仮想マシン (Hyper-V ゲスト)**: 各 RD 仮想化ホストで、RemoteFX が有効な仮想マシンをできるだけ多くホストする (各サーバーの GPU に割り当てられた VRAM の容量によります)。
* **シナリオ固有の要件**: 可用性が高い一連の RemoteFX の仮想マシンを作成する。クラスターを構成する各ノードを RemoteFX に対応したコンピューターにして、同一モデルの GPU を搭載する。
* ホスト間で仮想マシンをライブ マイグレーションする。
* ホスト間で仮想マシンをクイック マイグレーションする。
* **期待される動作**: メディア アプリケーション、DirectX アプリケーション、Office 製品が、RemoteFX の仮想マシンのライブ マイグレーションとクイック マイグレーション中も適切に機能する。

**シナリオ: RemoteFX のアプリケーションとの互換性**

* **サーバー (Hyper-V ホスト)**: RemoteFX が有効になっている 1 台以上の RD 仮想化ホスト サーバー。
* **仮想マシン (Hyper-V ゲスト)**: 各 RD 仮想化ホストで、RemoteFX が有効な仮想マシンをできるだけ多くホストする (各サーバーの GPU に割り当てられた VRAM の容量によります)。
* **シナリオ固有の要件**: RemoteFX のカスタム アプリケーションまたは基幹業務アプリケーションでホストする。可能であれば、DirectX、WPF、Silverlight、Flash、および他のリッチ メディア コンテンツが使用されているアプリケーションを使用する。
* **期待される動作**: LAN 経由で接続したときに、RemoteFX の仮想マシンで、基幹業務アプリケーションが適切に機能する。

**シナリオ: RemoteFX での USB のリダイレクト**

* **サーバー (Hyper-V ホスト)**: RemoteFX が有効になっている 1 台以上の RD 仮想化ホスト サーバー。
* **仮想マシン (Hyper-V ゲスト)**: 各 RD 仮想化ホストで、RemoteFX が有効な仮想マシンをできるだけ多くホストする (各サーバーの GPU に割り当てられた VRAM の容量によります)。
* **シナリオ固有の要件**: 多機能のプリンター、スキャナー、生体認証デバイス、Web カメラ、VoIP 電話、VoIP ヘッドセットなどの USB デバイスをクライアント デバイスに接続する。これらのデバイスを RemoteFX セッションで使用する。
* **期待される動作**: USB デバイスが RD 仮想化ホストの RemoteFX で適切に機能する。

**シナリオ: RemoteFX で RD 接続ブローカーと RD Web アクセスを使用する**

* **サーバー (Hyper-V ホスト)**: RemoteFX が有効になっている、1 台以上の RD 仮想化ホスト サーバー、RD 接続ブローカー、および RD Web アクセス。
* **仮想マシン (Hyper-V ゲスト)**: 各 RD 仮想化ホストで、RemoteFX が有効な仮想マシンをできるだけ多くホストする (各サーバーの GPU に割り当てられた VRAM の容量によります)。
* **シナリオ固有の要件**: RD 接続ブローカーと RD Web アクセスを使用して、個人の RemoteFX の仮想マシンまたはプールされた RemoteFX の仮想マシンにアクセスする。
* **期待される動作**: マイクロソフトが提供している組み込みのソリューション (RD 接続ブローカーと RD Web アクセス) が RemoteFX で適切に機能する。

## その他

### Dynamic Memory

#### Dynamic Memory とは

##### Dynamic Memory の概要

Dynamic Memory を使用すると、仮想マシンの実行中に仮想マシンで実際に使用されているメモリ量に応じて、仮想マシンに割り当てられるメモリ量が調整されるように仮想マシンを調整できます。Dynamic Memoryを使用すると、1 台の物理コンピューターで、より多くの仮想マシンを実行できます。また、メモリは、常時、実行中の仮想マシン間で、適宜分散されています。

Dynamic Memoryを仮想マシンで使用するには、最新バージョンの統合サービスを仮想マシンにインストールする必要があります。最新バージョンをインストールすると、仮想マシンの設定でメモリの設定を構成し、仮想マシンで Dynamic Memoryを使用できます。Dynamic Memory が使用できるようになったら、次の 4 つのパラメーターを構成できます。

* スタートアップ RAM  
  仮想マシンの起動に必要なメモリの量です。この値は、ゲスト オペレーティング システムを起動するのに十分な設定にする必要があります。ただし、Dynamic Memory を使用して、最適なパフォーマンスを実現するためには、できる限り低い設定にする必要があります。仮想マシンに割り当てられるメモリの量が、初期メモリの値より少なくなることはありません。
* 最大 RAM  
  仮想マシンでは、最大 RAMに指定された値よりも多くのメモリを使用することはできません。この値は、スタートアップ RAM の値から 64 GB までの範囲で、自由に構成できます。
* メモリ バッファー  
  メモリ バッファーの値は、仮想マシンで実行するアプリケーションやサービスで実際に必要なメモリの量と比較して、仮想マシンに割り当てるメモリの量を示します。  
  コンピューターに使用可能な物理メモリが十分になく、すべての仮想マシンに必要な量のメモリ バッファーを割り当てられない場合、メモリ バッファーは確保されません。
* メモリの優先度  
  メモリの優先度の値は、コンピューターに使用可能な物理メモリが十分になく、すべての仮想マシンに必要な量のメモリを割り当てられない場合、仮想マシンの間でメモリをどのように分散するかに応じて変化します。  
  優先度の高い仮想マシンには、同じような設定の優先度の低い仮想マシンと比較すると、より多くのメモリが割り当てられます。

##### サポートされているゲスト オペレーティング システム

Dynamic Memory は、次のゲスト オペレーティング システムでサポートされています。

* Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows Server 2008 R2 Datacenter Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows 7 Ultimate Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows 7 Enterprise Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows Server 2008 Enterprise Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows Server 2008 Datacenter Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows Vista Ultimate Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows Vista Enterprise Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows Server 2003 R2 Datacenter Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows Server 2003 Enterprise Edition (32 ビット版および 64 ビット版)
* Windows Server 2003 Datacenter Edition (32 ビット版および 64 ビット版)

上記以外のオペレーティング システムを実行している仮想マシンで Dynamic Memory を使用した場合、ゲスト オペレーティング システムではスタートアップ RAM にしかアクセスできません。

サポートされている各オペレーティング システムでは、最新の統合サービスをインストールしたり、Dynamic Memory を使用したりする前に、公開されている必要なメモリの値と推奨メモリの値を設定する必要があります。Dynamic Memory が使用できるようになったら、Dynamic Memory の最適なパフォーマンスを実現するために、初期メモリの値をより低い値に設定します。最大メモリの値は、常に、仮想マシンで実行するオペレーティング システムに必要なメモリよりも大きい値に設定します。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **オペレーティング システム** | **必要な メモリ** | **推奨メモリ** | **スタートアップ RAM (Dynamic Memory が使用可能な場合)** |
| Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition | 512 MB | 特になし | 512 MB |
| Windows Server 2008 R2 Datacenter Edition | 512 MB | 特になし | 512 MB |
| Windows 7 Ultimate Edition | 1 GB | 特になし | 512 MB |
| Windows 7 Enterprise Edition | 1 GB | 特になし | 512 MB |
| Windows Server 2008 Enterprise Edition | 512 MB | 1 GB | 512 MB |
| Windows Server 2008 Datacenter Edition | 512 MB | 1 GB | 512 MB |
| Windows Vista Ultimate Edition | 512 MB | 1 GB | 512 MB |
| Windows Vista Enterprise Edition | 512 MB | 1 GB | 512 MB |
| Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition | 128 MB | 256 MB | 128 MB |
| Windows Server 2003 R2 Datacenter Edition | 512 MB | 1 GB | 128 MB |
| Windows Server 2003 Enterprise Edition | 128 MB | 256 MB | 128 MB |
| Windows Server 2003 Datacenter Edition | 512 MB | 1 GB | 128 MB |

##### Dynamic Memory を調整して最適なパフォーマンスを実現する

仮想マシンで Dynamic Memory を使用できるようになったものの、仮想マシンを使用する際のパフォーマンスに満足していない場合は、次のように構成を変更することで、パフォーマンスを向上できることがあります。

* ゲスト オペレーティング システムのページ ファイルのサイズを大きくします。  
  仮想マシンのページ ファイルが大きいほど、メモリが突然必要になった場合でも、より多くのメモリを実行中の仮想マシンに追加できます。また、使用できる物理メモリの量が制限されている場合でも、仮想マシンを適切に実行できます。
* 仮想マシン用に構成するメモリ バッファーを増やします。  
  メモリ バッファーを増やすと、仮想マシンで実行するアプリケーションやサービスで実際に必要なメモリの量よりも多くのメモリが仮想マシンに割り当てられます。この余分なメモリはファイルをキャッシュするために使用するなど、I/O が集中的に発生するアプリケーションやサービスのパフォーマンスの向上に役立つ場合があります。
* 仮想マシンのスタートアップ RAM を増やします。  
  アプリケーションによっては、アプリケーションを最初に起動したときの使用可能なメモリの量に基づいて、メモリの量を固定して割り当てるものがあります。このようなアプリケーションは、初期メモリの値を高くするほど、パフォーマンスが高くなります。  
  また、仮想マシンに割り当てるメモリを大幅に削減した結果、パフォーマンスが低下した場合、初期メモリの値を増やして、この問題を緩和できます。  
  ただし、初期メモリの値を増やすことで、Dynamic Memory の全体的な柔軟性と有効性が低下することに注意してください。

##### 仮想マシンのメモリ優先度を上げる

仮想マシンのメモリ優先度を上げると、使用可能な物理メモリが、その仮想マシンに割り当てられてから、他の仮想マシンに割り当てられるようになります。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 - Dynamic Memory と Hyper-V フェールオーバー クラスタリング**

##### 目的:

Hyper-V で実行されている仮想マシンが、適切に Dynamic Memory を使用できることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. 各ノードに 64 台の仮想マシンを作成します。各仮想マシンは、 Dynamic Memory を使用するように構成する必要があります。各仮想マシンに、ある程度の負荷をかけ、メモリの割り当てと解放が行われるようにします。
2. すべての仮想マシンをクラスター化します。このガイドラインの詳細については、http://technet.microsoft.com/en-us/library/dd197477(WS.10).aspx (英語) を参照してください。
3. ライブ マイグレーション (cluadmin コマンドを使用する)、クイック マイグレーション (cluadmin コマンドを使用する)、フェールオーバー (cluadmin コマンドを使用する)、およびコンピューターの障害 (予期される再起動と予期しない再起動) のシナリオについて確認します。

Hyper-V フェールオーバー クラスターにある仮想マシンで Dynamic Memory を使用できるようにすることで、ハードウェアの使用率を上げることができます。ただし、これにはリスクが伴います。他の仮想マシンにメモリを解放するように要求しても解放されない場合、ハードウェアで障害が発生すると、仮想マシンを起動できないことがあります。このリスクを軽減するため、次のガイドラインに従うことをお勧めします。

* 単一のノードでエラーが発生したときに (または複数ノードでエラーが発生した状態を維持してもかまわなければ、複数のノードでエラーが発生したときに)、クラスターで使用できる物理メモリの量を計算します。その後、次の事項を確認します。
* クラスターにあるすべての仮想マシンのスタートアップ RAM の値の合計値が、クラスターで使用できる物理メモリの量より少ない。
* クラスターで使用できる物理メモリの量の範囲内で、仮想マシンで期待されるパフォーマンスが使用中の環境で実現できる。
* すべての仮想マシンの最大メモリの値の合計値が、クラスターで使用できる物理メモリの量の 2 倍程度である。

##### 期待される動作:

仮想マシンのフェールオーバー サービスが適切に機能し、 Dynamic Memory の管理メカニズムが適切に機能する。

##### 例外:

なし

### SQL Server

#### SQL Server における品質向上

Windows Server 2008 R2 SP1 で実行する SQL Server 2008 では、フェールオーバー クラスターの機能が向上しました。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 - SQL Server 2008 のフェールオーバー クラスタリングの基本的なインストール方法 (フェールオーバー クラスターの作成とノードの追加の機能を使用する)**

##### 目的:

SQL Server 2008 のフェールオーバー クラスタリングの基本的なインストール方法 (フェールオーバー クラスターの作成とノードの追加の機能を使用する) について確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 と SQL Server 2008 をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

SQL Server のフェールオーバー クラスターの基本的なインストール方法を使用して、2 ノードのSQL Server 2008 R2 RTM + SP1 (SQL Server 2008 のスリップ ストリームを使用) フェールオーバー クラスターをWindows Server 2008 R2 SP1 にインストールします。

インストール方法については、http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms179410.aspx を参照してください。

##### 期待される動作:

SQL Server 2008 のフェールオーバー クラスターの基本的なインストールが正しく完了する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 2 - SQL Server 2008 のフェールオーバー クラスタリングの高度なインストール方法 (フェールオーバー クラスター セットアップの準備とフェールオーバー クラスターの完了の機能を使用する)**

##### 目的:

SQL Server 2008 のフェールオーバー クラスタリングの高度なインストール方法 (フェールオーバー クラスター セットアップの準備とフェールオーバー クラスターの完了の機能を使用する) について確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 と SQL Server 2008 をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

SQL Server のフェールオーバー クラスターの高度なインストール方法を使用して、Windows Server 2008 R2 SP1 のインストール後に、2 ノードの SQL Server 2008 R2 RTM + SP1 (SQL Server 2008 のスリップ ストリームを使用)フェールオーバー クラスター インスタンスをインストールします。

インストール方法については、http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms179410.aspx を参照してください。

##### 期待される動作:

SQL Server 2008 のフェールオーバー クラスターの高度なインストールが正しく完了する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 3 - SQL Server 2008 をインストール (基本的なインストール方法を使用) した後、Windows Server 2008 R2 に Windows Server 2008 R2 SP1 をインストールする**

##### 目的:

SP1 をインストールした後、SQL Server 2008 のフェールオーバー機能を (基本的なインストール方法を使用) 確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 と SQL Server 2008 をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. SQL Server 2008 をインストールします。
2. 基本的なインストール方法を使用して、フェールオーバー機能をインストールします。
3. サービス パックをインストールします。

インストール方法については、http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms179410.aspx を参照してください。

##### 期待される動作:

サービス パックをインストールした後も、SQL Server 2008 のフェールオーバー機能 (基本的なインストール方法を使用) が期待どおりに動作する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 4 - SQL Server 2008 をインストール (高度なインストール方法を使用) した後、Windows Server 2008 R2 に Windows Server 2008 R2 SP1 をインストールする**

##### 目的:

SP1 をインストールした後、SQL Server 2008 のフェールオーバー機能 (高度なインストール方法を使用) を確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 と SQL Server 2008 をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. SQL Server 2008 をインストールします。
2. 高度なインストール方法を使用して、フェールオーバー機能をインストールします。
3. サービス パックをインストールします。

インストール方法については、http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms179410.aspx を参照してください。

##### 期待される動作:

サービス パックをインストールした後も、SQL Server 2008 のフェールオーバー機能 (高度なインストール方法を使用して) が適切に動作する。

##### 例外:

なし

**シナリオ 5 – Windows Server 2008 R2 上に、スリップ ストリームを使用して RTM + SP1 に2 ノードの SQL Server 2008 フェールオーバー クラスター (基本的なインストール方法) をインストールした後、SQL Server 2008 SP1 CU6 を適用する。その後、Windows Server 2008 R2 SP1 を適用する。**

##### 目的:

SP1 をインストールした後、SQL Server 2008 のフェールオーバー機能とSP1 CU6 を確認する (基本的なインストール方法を使用)。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1 と SQL Server 2008 をインストールする。

##### 適用:

サーバー

##### ステップ:

1. SQL Server のフェールオーバー クラスターの基本的なインストール方法を使用して、2ノードのSQL Server 2008 RTM + SP1 (SQLServer 2008 のスリップ ストリームを使用)フェールオーバー クラスターのインスタンスを、Windows Server 2008 R2 にインストールします。
2. SQL Server のフェールオーバー クラスターをインストールした後、サービス パックをインストールします。
3. SQL Server 2008 SP1 CU6 を適用します。

インストール方法については、http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms179410.aspx を参照してください。

##### 期待される動作:

サービス パックをインストールした後も、SQL Server 2008 SP1 CU6 が適切に動作する (基本的なインストール方法を使用) 。

##### 例外:

なし

### 日本語特有の機能

#### 日本語入力

Windows Server 2008 R2 SP1と Windows 7 SP1では、Windows Server 2008 R2 RTMと Windows 7 RTMと同様に日本語入力することができます。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 – 日本語入力**

##### 目的:

Windows 上で動作するアプリケーションのテキストが入力できる個所で日本語入力が正しくできることを確認する。このテストはブラウザ上での日本語入力の確認も含まれる。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1をサーバーにインストールする。またはWindows 7 SP1をクライアントにインストールする。

日本語版Windows Server 2008 R2 SP1と Windows 7 SP1には、既定で日本語のMicrosoft IMEがインストールされています。もし英語版をお使いの場合、[コントロールパネル] – [キーボードまたは入力方法の変更]-[キーボードと言語] – [全般]から日本語のMicrosoft IME を追加してテストを実施してください。

##### 適用:

サーバーとクライアント

##### ステップ:

1. アプリケーションを起動します。（例：メモ帳）
2. IMEを有効にします。
3. 日本語入力をして、候補ウィンドウから文字列を選択し、確定します。

より詳細なテストをするには：

* Windowsに付属していないIMEを使う
* さまざまなアプリケーションで日本語入力をする（たとえばWindowsに付属していないアプリケーションやWindowsに付属しているコンソールなど）
* ブラウザで参照しているウェブサイトのテキストコントロール等で日本語入力をする
* 既定のローマ字入力ではなく、かな入力で日本語入力する
* IMEの再変換機能を使う
* ユーザー辞書に単語を登録して、その単語に変換する
* IMEパッドを使用する
* クライアントからリモートデスクトップやXP Mode、RemoteAppでサーバーに接続し日本語入力をする
* 負荷がかかりやすい環境やPC（ATOMなど）で日本語入力する
* Shift\_JISではサポートされていない文字を混ぜて入力する（たとえば「森鷗外𠮟る」）

##### 期待される動作:

いずれの場合も日本語入力が正しくでき、意図した文字がアプリケーション上で表示される。

##### 例外:

Unicode非対応のアプリケーションでは、Shift\_JIS以外の文字は表示されません。

#### 日本語での検索

Windows Server 2008 R2 SP1と Windows 7 SP1では、Windows Server 2008 R2 RTMと Windows 7 RTMと同様に検索することができます。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 –日本語の文字を使って検索する**

##### 目的:

半角英数字だけでなく、日本語の文字を含む検索対象を日本語の文字で検索して正しい検索結果が得られることを確認する。

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1をサーバーにインストールする。またはWindows 7 SP1をクライアントにインストールする。検索対象のファイルをサーバーまたはクライアントに作成したりコピーした場合にはインデックスの作成が完了するのを待ちます。

##### 適用:

サーバーとクライアント

##### ステップ:

1. 日本語の文字を含むファイルを作成します。（検索可能なファイルは[コントロール パネル] – [インデックスのオプション] – [詳細設定] – [ファイルの種類]で参照可能です）
2. インデックスが作成されるのを待ちます。
3. スタートメニューの検索ボックスからファイルに含まれる文字を検索します。

より詳細なテストをするには：

* 半角スペースだけでなく、全角スペースをセパレーターとして使用する
* セパレーターとして半角スペースや全角スペースを使用しないで検索する
* さまざまなアプリケーションで検索する（たとえばヘルプとサポートなど）
* スタートメニューの検索ボックス以外に、エクスプローラーの検索ボックスでも検索する
* コントロールパネルやWindows付属のアプリケーションを検索する
* 検索フィルターやAQS[[1]](#footnote-1) を使って検索する

##### 期待される動作:

いずれの場合も日本語で検索が正しくでき、意図した検索対象を見つけることができる。

##### 例外:

なし

#### 日本語文字の表示

Windows Server 2008 R2 SP1と Windows 7 SP1では、Windows Server 2008 R2 RTMと Windows 7 RTMと同様に日本語の文字を表示することができます。

#### 重要なシナリオ

**シナリオ 1 –日本語の文字を表示する**

##### 目的:

半角英数字だけでなく、日本語の文字が正しく表示されることを確認する

##### このシナリオを実行するための準備:

Windows Server 2008 R2 SP1をサーバーにインストールする。またはWindows 7 SP1をクライアントにインストールする。

##### 適用:

サーバーとクライアント

##### ステップ:

1. 日本語の文字を入力します。
2. 入力した文字が正しく表示されているか確認します。

より詳細なテストをするには：

* 設定されているフォント、スタイル、文字サイズで表示されているか確認する
* さまざまな、Windowsコンポーネント、アプリケーションやWebサイトで確認する
* さまざまな文字の種類（例：Non BMPの「𠮟」「𩸽」など）で確認する
* 円マーク(\)を入力する
* 横書きだけでなく縦書きで表示する

##### 期待される動作:

いずれの場合も日本語の文字が正しく表示できる

##### 例外:

Unicode非対応のアプリケーションでは表示できない文字があります

以上

1. http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows7/help/find-what-you-are-looking-for-staying-organized-in-windows-7 [↑](#footnote-ref-1)